

大震災は想定外のブラック・スワンか～想定できる未来とは～

ブラック・スワンとは、タレブ著「ブラック・スワン-不確実性とリスクの本質」で語られる、市場(人々)が想定しなかった破綻のことで、先日開催された日本地震学会のシンポジウムで、日本を代表する地震学者たちは、今回の東日本大震災は、「想定外」だったと口を揃えました。人類は、未来のブラック・スワンを想定できないのでしょうか。今回は橘玲の最新刊「大震災の後で人生について語るということ」を読んで、日本経済の未来について考えてみたいと思います。

日本を襲った4つの神話の崩壊

- ① 持家は賃貸より得だという「不動産神話」
- ② 大会社に就職して定年まで勤めるとい「会社神話」
- ③ 日本人なら円資産を保有するのが安心だという「円神話」
- ④ 定年後は年金で暮らせばいいという「国家神話」の崩壊です。

今回は、社会保障と税の一体改革を迫られている国家財政問題にフォーカスします。お金は天から降って来ないし、この世に錬金術はないのですが、一方で皆が望む「成長戦略」は、今の日本にはありません。この状況下でこれから我々は、人口総数の減少(労働人口の減少)、高齢化、少子化の進展という確定した未来を迎えます。国債等の残高で1,000兆円もの公的負債を負う日本で暮らす我々は、どう備えればよいのでしょうか。

これから想定されるのは、

日本国家財政の債務超過→国債が売れ残る(国債の暴落)→金利の上昇、円安、インフレ→最後は預金封鎖と資産税賦課による「個人金融資産と国家債務の相殺」

預金封鎖、資産税までいくと、まさしく想定外でしょうが、金利上昇と円安、インフレは想定内として覚悟しておかなければならないでしょう。ただしいつそうなるのか、タイミングの予想は困難です。

ジャック・アタリが想定する最悪シナリオ

歴史的に分析して国家の債務悪化が導く先はどうなるのか、フランスの経済学者ジャック・アタリは、2009年8月刊「国家債務危機」で、世界経済の最悪のシナリオとして以下の4段階を想定しています。

- ① 主要国の過剰債務が、さらに増大する。
- ② ユーロ破綻と世界不況。2009年から2011年の現在まで、確かに先進国の公的債務は増大しましたし、ギリシャの財政破綻を発端とするユーロ経済危機は予想されており、①と②までは現実となりました。ユーログループが一致団結して財政問題に取り組まない限り、ユーロの存在自体が危ぶまれています。
- ③ ドル破綻と世界的インフレ。米国債の格下げにより、増税と公的債務の削減に迫られ、アメリカは不況回避のためインフレ政策をとる。IMFから支援を受けてアメリカはドル紙幣を乱発して、世界的なインフレへ。米国債を買っていた中国(日本も)は、ドルを見限り、世界の中心はアジアに移る。
- ④ 世界的不況からアジアの失速へ。ドルの信用力低下により中国の保有する外貨資産も減価し、中国や日本も減価した資産を処分する。荒廃した欧米から出た不況は世界に蔓延し、国内政治の安定のため高度経済成長が必要なアジアも、失速する。

もともと、この本でジャック・アタリは、国内貯蓄によってまかなわれる公的債務であれば、耐え得るとして、日本の国家の債務超過には楽観視しています。はたして、次なるブラック・スワンは何なのでしょう。

確実に来る未来

2011年10月3日号で日経ビジネスは確実に来る未来100を特集。その主な項目は、
人口が変える世界経済の勢力図—
 中国、米国、インドがGDPで世界をリードする

日本収縮 財政破綻は許されない

- インフラの修繕すら滞る
- 25年度社会保障の給付は136兆円に 国の借金を家計で賄えなくなる
- 36年日本の借金が2000兆円超

2025～34年 人口減少本格化

- 全都道府県で人口減少が始まる
- 100万人分の血液が不足、50歳男性の3人に1人が未婚に
- 2035～39年 都内にシニアが増大、地方では過疎化が深刻に
- 2040～49年 ついに高齢者も減少、葬儀ビジネス増加、3軒に1軒が空き家
- 2050年～ 80代男性、90代女性が当たり前の長寿大国に